

栗原市地域事業所・関係福祉施設における防災訓練等の実施状況（令和5年6月金成支援学校前期現場実習協力先）

	施設企業	火災		地震		Jアラート		聴取事項	学校で卒業までに身に付けてほしい力
		有無	回数	有無	回数	有無	回数		
1	A	有	1	有	1	無	-	・消防署の方の都合がつけば実施している。 ・震度5以上の時、施設送迎で自宅まで送る。 ・備蓄品も準備してある。 ・事業所を立ち上げるにあたって、東日本大震災の経験を生かして、「生きる」＝「食べる」ということも利用者に教えていきたいという思いで立ち上げた。	・東日本大震災の時、利用者の方は自分で防災頭巾を被り、机にもぐり、落ち付いてケガなく避難できた。 ・学校でしっかり訓練されていると思った。これからも継続してほしい。
2	B	有	1	有	1	無	-	・年1回地震と火災を合わせた訓練を行っている。 ・大規模災害の時は家庭の送迎を待つ。 ・備蓄品、ブランケット等準備している。 ・消火訓練は訓練の成果で慣れている。	・訓練を重ねることにより、非常時にも落ち着いた行動ができる力を身に付けさせてほしい。
3	C	有	2	有	2	無	-	・地震で強い揺れがあった場合は、状況により保護者の送迎を待つ（送った後一人でいれない利用者もいるため）。	・学校の訓練の継続をお願いしたい。
4	D	有	5	有	5	無	-	・障害の重い利用者さんも多くサイレンの音によりパニックになる方もいる。利用者が慣れることと職員も臨機応変に対応できる力を身に付けられるよう年5回実施している。 ・消火訓練は年1回（消防署との連携は年1回）。 ・送迎は御保護者に直接引き渡している。	・サイレンに慣れること。 ・「サイレン＝何らかの危険」という意識を身に付けさせて欲しい。
5	E	有	1	有	1	無	-	・備蓄品は三日分準備している。	・学校の訓練に真面目に取り組む力を身に付けさせてほしい。
6	F	有	2	有	1	無	-	・消防署員に避難訓練を見てもらい、消火訓練もしている。 ・備蓄品は3日分準備している。 ・避難場所が3カ所あるので、歩いてどれくらい時間がかかるかを今後確認する予定。	・訓練は事前に告知した日時・場所で実施しているので、事業所以外の場所でも避難できるのかが不安。事業所以外でも対応して避難行動が取れるようになってほしいと考えている。
7	G	有	2	有	2	無	-	・消防計画に基づいて実施している。毎年実施しているので落ち着いて避難している。 ・年2回地震と火災と併せて実施し、避難場所は駐車場または車庫としている。 ・大規模災害時は家庭に連絡し引き渡すよう計画している。 ・施設待機を想定し3日分の備蓄品やブランケットを準備している。 ・栗原市と防災協定を結んでいる。九州で大規模災害があった時、備蓄品を支援し避難訓練を実施している。	・現在実施されている学校での避難訓練を今後も継続してほしい。
8	H	有	6	有	6	無	-	・避難訓練と合わせて消火訓練の実施をしている。 ・消防署との連携は2回（訓練の様子を見てもらっている） ・強い揺れがあった場合は事業所の送迎か家庭での送迎のいずれかで対応する計画である。 ・備蓄品はおおよそ5日分（水・備蓄パン）	・自分で自分の身を守る力（机に戻る・頭を守る） ・危険を察知する力 ・支援員の指示に従う力
9	I	有	1	有	1	無	-	・消火訓練の実施をしている。 ・強い揺れの時、安全であれば施設送迎。または、家庭の送迎を待つということを想定している。 ・備蓄品は3日分	・怖すぎて動けなくなったり、一人で走り出してしまうといったことにならないように、周囲と同じ行動が取れるよう訓練してほしい。
10	J	計画あり		計画あり		無	-	・利用者の方がまだいないので実施はしていないが、避難対応の計画はある。	・自分で自分の気持ちを落ち着かせる力 ・自分で自分の身を守る力
11	K	有	2	有	2	無	-	・地震と火災を想定した訓練を一括して実施している。 ・2回とも消防署と連携して実施している。 ・強い揺れがあったとき、送迎可能であれば事業所で送迎することを想定している。	・聞く力 ・聞いて理解して行動する力 *避難訓練は年に2回程実施しているが、その場だけでは避難の力が付くとは考えにくい。そのため総合して上記の力が必須と考える。
12	L	有	2	有	1	無	-	・備蓄品を準備している。 ・消防署と連携し、消火訓練を実施している。	・現行の学校の訓練を継続してほしい。
13	M	有	1	有	1	無	-	・備蓄品は特に用意していない。 ・自力で出勤しているので、移動可能であれば自力で帰宅することを想定して	・自分で自分の身を守る力 ・危険を察知する力
14	N	有	1	有	1	無	-	・避難訓練では放水確認まで実施（消防署とも連携） ・従業員の安否確認は警備会社の安否確認ツールを利用。 ・防災倉庫を第一工場・第二工場と設置し備品を管理している。（食品・水・衛生用品等） ・避難時には障害者一人一人に担当を決めているので担当者の指示に従って避難する。	・自分の身を守る力 ・くずれそうな物から離れるなど危険を察知して行動する力 ・安否確認用のツールを使える力
15	O	有	2	有	1	放送で随時呼びかけ	-	・消防署が連携し、通報から放水まで実施している。 ・避難場所は火元と逆の広い駐車場を利用する。 ・備蓄品800人分（水・米・ヘルメット・手袋・簡易トイレ・保温シート等）	・グループごとに皆と一緒に避難できる力
16	P	有	1	有	1	無	-	*地震・火災合わせて一回の避難訓練を実施している。 ・工場が広いので、避難場所は各工場ごとに ・避難経路の確保・確認 ・備蓄の食料は準備している	・指示に従う力 ・経路にそって避難する力 ・落ち着いて行動する力 ・事業所内にはフォークリフトなど機械もあるので経路に沿って落ち着いて避難する力
17	Q	有	1	有	1	無	-	・火災訓練は9月、地震訓練は3月に実施している。 ・消防署が来所し年に1度点検してもらっている。 ・貯水槽、消化ポンプ有り *工場内は安全確認のため必ずヘルメットを着用する約束になっている。	・危険を察知する力 ・身を守る力
18	R	有	2	有	2	無	-	・避難訓練は消防署と連携し、通報する行動までを訓練で実施している。 ・お客様がいない時間帯に実施し、お客様の誘導方法や職員の立ち位置なども確認している。	・パニックにならない力 ・安全に誘導する力
19	S	有	1	有	1	無	-	・備蓄品は市民の方用に準備をしている。 ・被災時の施設利用者の把握方法や、障害者の誘導方法等については今後も検討していきたい。	・家族と離れている時の連絡や帰宅方法の確認（回線が繋がらないときは防災伝言ダイヤルの使い方を覚えておく、避難場所を家族と確認しておく等） ・見知らぬ人との行動や声掛け（災害がいつ起こるか分からないので、知らない人にも自分から声を掛けて聞く。声を掛けられないときには文字に書く。カードやイラストで示す等コミュニケーションを取れるツールを確保しておく） ・薬の持参（2～3日分）を常に心掛ける指導 ・自分で考えて行動する力
20	T	無	-	無	-	無	-	・現在は職員3人だけなので、特に訓練は実施していない。	・危険を察知する力を育ててほしい。 （地震、大雨時になった場合に備える、家の周囲の状態、通学路の状態の判断、ブロック塀等の危険箇所）